

第2弾 孤立死問題 わが街いしかりで共に考える集

今年3月29日に第1弾の札幌市白石区姉妹孤立死問題で集いを持ちました。その後、各地域で孤立死問題にかかわっての取り組みが進められています。あらためて、一歩進めてこの孤立死問題を共に考えていきましょう。

第2弾集いの主な内容

1. 第1弾を振り返る
2. 南富良野町の取り組み DVD上映
「北の国」での支えあい～南富良野町の権利擁護支援
3. 各地域での取り組み
4. いま、私たちの身近な地域での課題と
これからのP & Aいしかりの活動

資料

障害者、高齢者
見守り強化を

とき 11月 8日 (木)
10:00~12:00

ところ 石狩市総合保健福祉センター
りんくる 視聴覚室 (3階)

参加費 無料
どなたでもご自由にご参加下さい

主催 P & Aいしかり設立準備会

問い合わせ先

石狩市障がい者支援センター
0133-73-8868
(遠藤・金子)

あと一歩踏み出せ

障害者の孤立どう防

当事者、親、施設関係者

地域自立生活応援センター
「共生会」(札幌)職員
岩渕真知子さん(58)

障害者
「松風学園」
光増昌久

申請主

地域

「P & Aいしかり」は、「どんな障がいがあっても、安心して地域でくらしていくようにしたい!」「障がいのあるひとへのよき理解者を増やし、広げたい!」「地域でのセーフティネットをつくろう!」これらを基本に活動しています。

11・8 第2弾 孤立死問題

わが街いしかりで共に考える集い

10：00 集いの開会

司会者 伊藤 邦子

開会の挨拶 P & Aいしかり設立準備会 佐々木 公子

今日の集いの流れの説明 司会者より

10：10 第1弾の集いを振り返る

10：20 南富良野町の取り組み DVD 上映

「北の国」での支えあい～南富良野町の権利擁護支援 (30分程度)

10：50 各地域での取り組み

(1) 報道記事から・・・・・・資料

- ・厚生労働省
- ・札幌市
- ・その他各報道記事から

(2) 各地域から

- ・北九州市でのいのちをつなぐネットワーク
- ・「孤立・孤独死」を防ぐ為に私達ができること
チェックリスト (東京都江東区)
- ・住民流福祉総合研究所 (埼玉県)
- ・板橋安心ネット (東京都板橋区)

11：10 いま、私たちの身近な地域での課題は

- ・板橋区での事例から

・・・・身近な地域でこんなことがあったメモタイム！・・・・

11：45 これからP & Aいしかりの活動

11：55 閉会の挨拶 P & Aいしかり設立準備会

遠藤 健治

12：00 終了

孤立死対策で調査 知的障害者の8割、自宅訪問希望ます

民生委員の役割知つて

市、広報5月号に特集記事

札幌市白石区の姉妹の孤立死を受け、市は民生委員の仕事などを紹介する特集記事を広報5月号に掲載する。公的福祉サービスを受けていない知的障害者を対象に市が行つた調査で、民生委員の自宅訪問を望まないとの回答が8割に上つたことから、知的障害者や家族に民生委員への理解を深めてもらう考えだ。

特集は2ページで、長年ユーモアを掲載。訪問を希望する高齢者宅を毎月務めている北区の女性民生委員へのインタビュー回つているなど日常の

活動を紹介し、「民生委員は気軽に話しあう相手になれるし、相談内容を他者に話すことも絶対ないので、困ったことがあつたら頼りにしてほしい」と呼び掛けている。

広報に合わせ、市は

民生委員への連絡窓口となる各区の社会福祉協議会や、いずれも市

が委託する地域包括支援センター、障がい者相談支援事業所の住所や電話番号を記載したチラシを計14万部作製。5月上旬に区役所

札幌市が区役所などで配布する、民生委員の活動を紹介したチラシ

希望する高齢者宅を毎月

回つているなど日常の

市と障害者、認識にずれ

支援や見守りに不安感

札幌市が民生委員の仕事を紹介する記事を

広報誌に掲載すること

に市の調査で「民生委員の訪問を望まない」と答えた知的障害者や家族から、戸惑いの声が上がっている。

訪問を望まないのは民

生委員の仕事を理解しないからではない

市は姉妹の孤立死を受け、民生委員や電気、ガスの供給業者に見守りの協力を求め、障害

などで配布する。

市は「顔見知りではない民生委員が生活の場にかかわろうとする」と分析し、今回の

周知を含め、今後も民生委員や、相談できる施設の紹介に力を入れていく。

(藤本卓郎)

市は「顔見知りではない民生委員が生活の場にかかわろうとする」と分析し、今回の

周知を含め、今後も民生委員や、相談できる施設の紹介に力を入れていく。

(川浪伸介)

2月に市内の1222人に実施した調査の中間報告では、「民生委員に自宅に来てほしいか」との質問に81%が「来てほしくない」と答えた。

次男は市内の企業でせつせんづくりに従事し、一人で通勤もでき無が判別しにくいこともあり、母親は「あえて、周囲に障害のこと

は話さない」という。ただ、想定外や複雑な質問に答えられないため、将来、一人で生きていくけるか不安を感じていることが分かつていて、「市は「顔見知りではない民生委員が生活の場にかかわろうとする」と分析し、今回の周知を含め、今後も民生委員や、相談できる施設の紹介に力を入れていく。

中央区で民生委員の協議会会長を務める三上嵩男さん(70)も「市の対応は前進」と理解を示しながら、「民生委員の高齢化など課題も多い。私たちが責任を持って仕事できるよう、市にはさらに努力してほしい」と話している。

てほしくない」と回答したことには、「もっと早く、親身な対応ができるのだろうか」と疑問を投げかける。

民生委員にも困惑は広がる。市内の民生委員の男性は「障害に対する十分な知識もない」と相談にきちんと対応できるか不安視す

てほしくない」と回答したことには、「もっと早く、親身な対応ができるのだろうか」と疑問を投げかける。

民生委員にも困惑は広がる。市内の民生委員の男性は「障害に対する十分な知識もない」と相談にきちんと対応できるか不安視す

【心身障害者福祉】

民生委員に研修会

— 知的障害者の見守り活動 —

札幌市が来月 不安解消図る

札幌市白石区の姉妹孤立死を踏まえた対策として、民生委員による知的障害者の見守り活動の開始を検討している。札幌市は6月中旬にも、知的障害者への接し方に関する民生委員向けの研修会を開く。障害者福祉施設の職員が講師となる予定で、市は「民生委員の不安や負担を少しでも軽減し、きめ細かな見守りにつなげたい」と目的を語る。

研修会は市内10区ごとに、それぞれの民生委員児童委員協議会と共催する。前半は市の担当職員が、現在作

成中の見守り活動マニュアルを説明。後半では、市内の障害者福祉施設などの職員に、知的障害のある利用者とのコミュニケーションの取り方や、面談時の注意点などを、現場の体験を基に話してもらう。

また、知的障害者宅への訪問・見守り活動が実際に始まった場合も、見守りを担当する民生委員を対象に研修会を開き、課題を出し合いつつも、アンケートもを行い、それらの意見をまとめて、食品安全委員に周知する。市は研修の場を設け

(藤本卓郎)

北海道 2012年(平成24年)5月12日

知的障害者の孤立死防止へ

知的障害者とその家族の孤立死を防ぐため、奈良県の障害者団体などが「お元気ですか」と語りかける手紙を、最近頃を見なくなった障害者の家族らに手渡す運動始めた。手渡す側も同じ障害者の家族。偏見や差別に苦しむ障害者の家族を対象にした全国でも珍しい取り組みで、専門家は「さりげなく気遣う、控えめなおせっかいがいい」と高く評価している。【岡奈津希、写真も】

奈良の団体が「手紙運動」

手紙は「見守りの手紙」と題され、A4判の二つ折り。

「心を休めて、時々雑談をしてほしくない」「がんばらないで、あきらめないで、ゆづりと」などと書かれている。

知的障害者の親についている一般社団法人「奈良県手をつなぐ育成会」など3団体と、県知的障害者相談員協議会が今月、約2400枚を作成。まずは障害者団体の会



「お元気ですか」



「がんばらないで、あきらめないで、ゆづりと」と書かれた手紙を障害者の親に手渡す陸田会長(右)=奈良県庁

で、知的障害者とその母が孤立死する事件が相次いだことだった。陸田八郎・同協議会会長(66)の長男(38)は重度の知的障害がある。言葉を話すことができず、緊急時に助けを求めるることは困難だ。それだけに陸田会長は「私も持病を抱え、いつどうなるか分からぬ。誰にでも起らうる事件」と話す。

松端克文(まつばた かつひん) 桃山学院大教授(社会福祉学)の話。地域守り活動の対象範囲は、市の実態調査で1人または2人暮らしが実際についたり約300人。このうち、すでに訪問を希望している約50人が、同時に訪問を始め、残り約250人は区職員が再訪問して希望の有無を尋ねる。

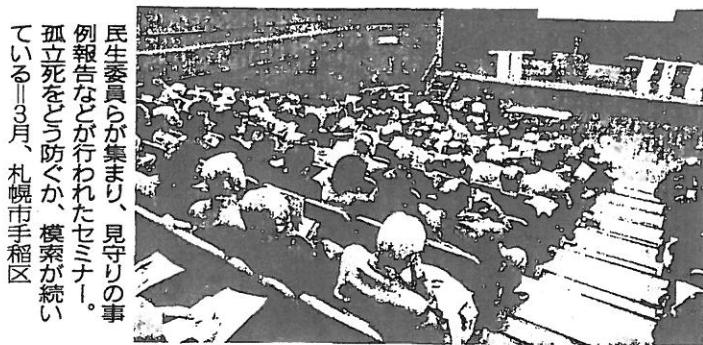
手紙は、障害者の子を持つ親が「私は今まで長く、子供の障害のことで人目を気にしたり、恥ずかしく感じたり、親の立場なので話がしゃべり、しんどい思いをしてきた」と同じ立場の親に語りかける内容。陸田会長は「同じ親の立場なので話がしゃべり、しんどい思いをしてきた」と手紙の効果を期待する。相談や問い合わせは同協議会(0744・29・0150)。

3月、東京都立川市と横浜市手紙のきっかけは今年2月と同年3月、東京都立川市と横浜市

毎日 大阪 2012年(平成24年)5月9日

孤立死防止へ札幌市が「見守りマニュアル」素案

障害者宅訪問 課題多く



民生委員らが集まり、見守りの事例報告などが行われたセミナー
孤立死をどう防ぐか、模索が続いている=3月、札幌市手稻区

民生委員戸惑う声も 「活動の効果不透明」

知的障害者の孤立死対策として札幌市がまとめた、民生委員のための「見守り活動マニュアル」素案は、民生委員が毎月、障害者宅を巡回することを柱とした。ただ、訪問を希望しない障害者も多く、民生委員からは効果のある見守り活動が行えるのか、戸惑う声も聞かれる。

素案では、民生委員は障害者宅を月に1、2度訪問し、直接面談の状況を見たりして安

札幌市白石区で40代の姉妹が孤立死した問題を受け、学識者や弁護士でつくる民間団体「全国『餓死』『孤立死』問題調査団」の井上英夫団長（金沢大教授）らが15～17日、札幌入りし現地調査を行う。生活保護の受給者や行政との懇談、市民集会などを予定している。

調査団は、生活保護問題対策全国会議（京都、代表幹事・尾藤広喜弁護士）など3団体が中心となり、3月に設立。白石区の孤立死をはじめ、全国各地で同種の事案が相次いでいるた

15～17日に学識者ら

白石の姉妹孤立死

め、問題の分析や行政への提言などを行っている。

白石区の孤立死問題については、知的障害のある妹と暮らす姉が、生活保護について同区役所にたびたび相談したものの、受給に至らなかつたことなどを問題視し、現地調査を行うことにした。

調査団メンバーは、15日午後

6時から、北区の北大学術交流会館（北8西5）で、孤立死を題材にした市民集会を開催。16日は亡くなつた姉妹が見つかつたマンション前で献花後、白石

民間団体が来札調査

区保健福祉部幹部や生活保護受給者と懇談する。メンバーらによる電話相談も行う。17日は、市保護指導課に一層の原因究明と再発防止の申し入れを行い、提言を発表する。

15日の市民集会は無料。問い合わせは「北海道生活と健康を守る会連合会」☎011・7329111。

（川浪伸介）

障害者の実態調査では、8割以上が民生委員の訪問を希望しないとした。周囲に障害を知られたくないとの思いや、個人情報が悪用されるのではないかとの懸念が背景にあるとみられる。

手稻区の民生委員金井恭一さん（58）は「支える側と見守られる側との意識のずれを埋めていかないと見守り活動の効果は得られないだろう」と指摘。「巡

厚別区の民生委員も「対策をやつたといふだけのアリバイ作りで終わってはならない」と強調。「民生委員に意が必要。福祉サービスを受けていない知的障害者に気持ちを開いてもらえるよう、市は障害者団体などを働きかけるべきだ」と力を込める。

三上嵩男会長（70）は、民生委員になり手不足や障害に対する知識に差があることなどと強調。「民生委員に問題を認めつつ、「障害者に困ったことがあれば、受け皿となる人がいることを伝えたい」と話している。

回だけでは解決にならない。近隣住民、ガス、電気、新聞販売の業者など皆で支える方向を目指すべきだ」と提案する。

三上嵩男会長（70）は、民生委員になり手不足や障害に対する知識に差があることなどと強調。「民生委員に問題を認めつつ、「障害者に困ったことがあれば、受け皿となる人がいることを伝えたい」と話している。

行政と懇談、市民集会も

区保健福祉部幹部や生活保護受給者と懇談する。メンバーらによる電話相談も行う。17日は、市保護指導課に一層の原因究明と再発防止の申し入れを行い、提言を発表する。

15日の市民集会は無料。問い合わせは「北海道生活と健康を守る会連合会」☎011・7329111。

北海道 2012年(平成24年)5月11日

孤立死再発防止 調査団が要望書

「適切な対応とすれば救えた」



札幌市に孤立死の再発防止の要望書を提出後、会見に応じる調査団の井上英夫団長（中央）らメンバー

まず、福祉サービスを受けていない障害者がいる世帯に、見守りや必要な有無などを調査。電気、ガスの供給業者に生活困窮者の孤立を早期に察知するための協力を要請し、民生委員にも見守りを高めます。福祉に向き合った姿勢でこれまでの問題を示し、反省を促す

市は姉妹の孤立死が分かった後、再発防止策を次々と打ち出していきます。福祉サービスを受けたところなども充実した対応を打ち出しても、現場の職員や組織が障害者の立場で判断し、対応しないと形骸化するという危機感からだ。

この結果、要望書は、生活保護の相談や申請をしやすい環境作りを求めた。調査団メンバーの吉永純・花園大教授は「市のこれまでの

人情報を取り扱いに個人情報を限定的に活用できる指針作りも必要です。今回の調査内容に含まなかつた障害者へ

札幌市白石区の姉妹が孤立死した問題で、17日に再発防止についての要望書を市に提出した「全国『餓死』『孤立死』問題調査団」（団長・井上英夫金沢大教授）は、「市はこれまで生活困難者に向き合ってこなかった」と反省を求める、地域住民との連携を提言した。行政だけで孤立死を防ぐには限界があり、個人情報の扱いや障害者への配慮など課題も多い。調査団の指摘は、今後の福祉行政に生かされるだろうか。

（川浪伸介、藤本卓郎）

障害者の立場で

齢者から、障害者世帯に広げるよう求めた。

こうした市の動きの一方、調査団は要望書で、行政側から生活困窮者への歩み寄りを強く求めた。

どんなに充実した対応を打ち出しても、現場の職員や組織が障害者の立場で判断し、対応しないと形骸化する

「もう一步前に」と話す。

「限界」も認める

また、提言は行政の限界も認め、ライフライン事業者や住民ら幅広い分野の人たちとの協力を求めた。行政だけでは、生活相談の窓口の拡大や見守り活動の拡充は、財政面から難しいためだ。

この際に問題となるのは、緊急時に個

と、臨機応変な対応の重要性を付け加えた。井上団長は「姉妹の孤立死は、災害などと違って、適切な対応をされなければ防げたはずだ」と指摘。メンバーの尾

藤廣喜弁護士も「相談者に対して、行政がもう一步、前に進むことができる仕組みが作れるか、試されている」と訴える。

行政の姿勢 反省促す

住民との連携強化指摘

札幌市の孤立死再発防止への主な対策

電気、ガスなどライフライン事業者と連携し孤立を早期発見
民生委員の見守り活動を障害者に拡大
各区保護課が生活保護相談者の困窮状況を確認するよう徹底
生活保護相談者の情報を詳細に記録
生活保護を申請せず帰った相談者に再度の相談を呼び掛け
生活保護を申請しなかった障害者世帯の情報共有
支援が必要な障害者世帯について障がい者相談支援事業所との情報共有を検討

調査団の要望・提言

<札幌市への要望>

生活保護の相談がしやすい環境作りや申請を促す対応
姉妹から相談を受けた職員に再聴取。6月末までに回答

孤立死の再発防止策を目的とした第三者検証委員会の設置
福祉の専門職員の増員や育成

<各自治体への提言>

緊急時に個人情報を限定的に活用できる指針づくり
孤立した住民と福祉サービスをつなぐ仕組みの構築
ライフライン事業者を含めた幅広い業界との連携
職員の専門性の向上

【心身障害者福祉】

25 札幌圏

2012年(平成24年)4月24日(火曜日)

北海道

札幌市の知的障害者実態調査
最終結果では、「主にどんなどをして過ごしていますか」との質問に、「いつも家にいる」と回答した割合が1人暮らしの人で42%となり、同居者がいる人の同居人数別の回答の30%～38%よりも高かった。「あなたの家に近所の人は来ますか」の問い合わせに対し、来なかったのは、同居者がいる人が26～47%だったのに対し、1人居暮らしの人は57%と半数を超えた。

この結果を受け市は、1人居暮らしの人に中心に孤立死回避の対策を実施。市は今後、民生委員用に詳しいマニュアルを作成。区の職員も同

最終結果では、「主にどんなどをして過ごしていますか」との質問に、「いつも家にいる」と回答した割合が1人暮らしの人で42%となり、同居者がいる人の同居人数別の回答の30%～38%よりも高かった。「あなたの家に近所の人は来ますか」の問い合わせに対し、来なかったのは、同居者がいる人が26～47%だったのに対し、1人居暮らしの人は57%と半数を超えた。

最終結果では、「主にどんなどをして過ごしていますか」との質問に、「いつも家にいる」と回答した割合が1人暮らしの人で42%となり、同居者がいる人の同居人数別の回答の30%～38%よりも高かった。「あなたの家に近所の人は来ますか」の問い合わせに対し、来なかったのは、同居者がいる人が26～47%だったのに対し、1人居暮らしの人は57%と半数を超えた。

最終結果では、「主にどんなどをして過ごしていますか」との質問に、「いつも家にいる」と回答した割合が1人暮らしの人で42%となり、同居者がいる人の同居人数別の回答の30%～38%よりも高かった。「あなたの家に近所の人は来ますか」の問い合わせに対し、来

合連合会の前川正一専務理事も、「文書を配布すると結局、顧客の生みかねない」とし、いたいという。

プライバシーに踏み込める、無用なトラブルをみ、無用なトラブルを防ぐなど、北海道生活保護の仕事に臨む心構えなどを職員に話した=写真

上田市長は「月に白石区で判明した姉妹孤立死の事例を挙げ、「生活保護の申請がされていないことも、困っている状況を見て他に何かできるのではないかと考えるかどうかが、ケースワーカーの仕事には大事」と述べ、きめ細かく対応するよう求めることはないかと

71人で、冒頭、上田文雄市長が生活保護の仕事に臨む心構えなどを説明。訪問調査をする際の心掛けとして、和やかで気軽に話ができる態度で面談に臨むことや、相手の話をうなずきながら聞くことなどを紹介した。

景気低迷を背景に札幌の生活保護受給世帯は年々増え、2011

年度の月別平均は4万

7716世帯に上つた。市は本年度のケ

ースワーカーの定員を前

年度より44人増の57

6人とし、対策を強めている。(藤本卓郎)

めた。参加者はメモを取るなどして、耳を傾けていた。

また担当職員が講師

となり、生活保護法の基礎や申請の流れなどを説明。訪問調査をする際の心掛けとして、

和やかで気軽に話ができる態度で面談に臨むことや、相手の話をうなずきながら聞くことなどを紹介した。

景気低迷を背景に札

幌の生活保護受給世帯

は年々増え、2011

年度の月別平均は4万

7716世帯に上つた。市は本年度のケ

ースワーカーの定員を前

年度より44人増の57

6人とし、対策を強めている。(藤本卓郎)

孤立化防止課題多く

ガス業者など協力要請に難色も

公的福祉サービスを受けていない札幌市内の知的障害者を対象にした2～3月の実態調査で、同市が23日に公表した最終結果は、孤立化が目立つ1人居暮らししている人などへの、早急な対策が求められることを浮き彫りにした。

市は今後、電気、ガスなどの供給業者との連携を模索し、民生委員による見守り活動も充実させる。ただ、業者との連携では協力を難色を示す声があるなど、課題も残されている。

(川浪伸介、藤本卓郎)

困った状況を見た仕事を_{札幌市長 ケースワーカーに講話}



本年度から新たにケースワーカーになれた。対象は新規採用された。札幌市職員の研修会が職員118人を含む1

「孤立死繰り返すな」

弁護士らの調査団が集会

札幌

北海道藝術交流会館で、市民集会を開いた。

集会には市民ら約1

札幌市白石区で40代の姉妹が孤立死した問題で、学識者や弁護士の周知が不十分だったとした上で、「現在は望んでいなくても、いざなない」としたのは、同居者がいる人が26～47%だったのに対し、1人居暮らしの人は57%と半数を超えた。

この結果を受け市は今後、民生委員用に詳しいマニュアルを作成。区の職員も同協力はしたい」としつつ

市は今後、日本ガス協会北海道部会の佐々木慎也事務局長は「できる限りの備えが重要」という実をもつて、意見を述べた。市と業者は3月の会議で個人情報の扱いをめぐって平行線をたどっているだけ構えから、見守りを充実させるという。

井上英夫(大教授)のメンバー20人が15日、札幌入りした。17日まで孤立死が起きた原因や背景などを調べた。

調査団は3月に結成し、全国で相次ぐ孤立死の分析などをしている経過を調査する。

16日には亡くなつた妹の自宅前で献花言を発表する。

北海道

2012年(平成24年)5月16日

【心身障害者福祉】

神戸・51歳知的障害者

◆今年判明した障害者の 主な「孤立死」◆

(※年齢はいずれも当時)

札幌姉妹 1月20日夜、札幌市の賃貸マンションで無職の姉(42)と知的障害者の妹(40)の遺体を、管理会社から「12月中旬から連絡が取れない」と通報を受けた警察が発見。姉は病死、妹は凍死の模様。ガスは11月末、電気は1月初めごろに停止。

東京・立川母子 2月13日午後、東京都立川市のマンションで死後約2カ月たった母(45)と知的障害児の次男(4)の遺体を発見。ガスが長く使われていないと管理会社から知らされた親族が警察に通報。母はくも膜下出血、次男は衰弱死とみられる。

横浜母子 3月17日、横浜市の住宅で母(77)と小児までの重度の知的障害がある息子(44)の遺体を息子の通う福祉施設職員が昨年12月6日に見つけたことが判明。母は高血圧と糖尿病を患い11月末に病死、息子は発見前日に肺気腫や呼吸不全で死亡したとみられる。

神戸市東灘区で、母親を亡くして一人になった中度の知的障害のある男性(51)が、地域で住民の支援を受けながら暮らしている。同居する家族と一緒に障害者や認知症のお年寄りが遺体で見つかる「孤立死」が相次ぐ。

中、家族は「もし自分が死んだら」という不安にさらされている。孤立死を防ぐために、男性のケースは一つのヒントになりそうだ。【桜井由紀治、写真も】

NPO同士が連携

神戸市東灘区で、母親を亡くして一人になった中度の知的障害のある男性(51)が、地域で住民の支援を受けながら暮らしている。同居する家族と一緒に障害者や認知症のお年寄りが遺

男性は一人っ子で、父親を94年に亡くしてからは母親と2人暮らし。母親は、障害者の自立を支援するNPO「チャレンジひがしなだ」(武田陽子理事長)が03年に設立された当初から加わっていた。

会員が異常に気づいたのは10年春ごろ。母子は汚れた服を着て、風呂にも入っていない様子だった。母親は昔話を繰り返し、病院で認知症と診断された。家中はごみだらけ。母親が食事

母さん、皆心配してくれます

を作っている形跡はない、男性は好きなものを持っては食べ散らかしていた。

会員が神戸市の障害者相談窓口「ひがしなだ障害者地域生活支援センター」に通報し、母親に成年後見人が付いた。10年6月、母親ががんで緊急入院。男

性は夜中、会員に「ひうしたらいい」と電話で助けを求めてき(62)が成年後見制度の保佐人と別にNPOで障害者の権利擁護活動に取り組む岩田裕子さん

に成年後見人が付いた。10年6月間には、後見人や武田理事長、支援センター担当者が集まり、どう支援するかを協議した。施設を運営するが、男性は「自宅で暮らしたい」と希望した。

母親は同年12月1日、恩引き取った。

「定期券をなくした」「トイレの水が止まらない」。岩田さんは、「親のように頼りにしてくれるのがうれしい」と、関わり続けていくことを決めている。



男性の誕生日をケーキで祝う(左から)武田陽子
理事長と岩田裕子さん、眞さん=神戸市東灘区で

4月13日、会員たちは男性の51回目の誕生日をケーキで祝った。男性は「時々寂しいこともあるけど、大丈夫。皆が心配してくれるからうれしい」と笑顔を見せた。武田理事長は「男性は親がいるうちに会うつながっていたからこそ地域ぐるみでの支援が可能になつたが、一人暮らしには限界がある」と話し、日常生活の支援を受けながら自立した生活を送れるケアホームの整備を訴えている。

して、自宅での暮らしを見守ることになった。夫眞さん(67)もボランティアとして加わった。「チャレンジ」は拠点のマ

ンションで通常は月に1~3泊

程度実施している障害者の宿泊

訓練を、男性には一時、毎月7

日間に延長。会員も交代で泊

まり込み、洗濯や入浴、掃除な

どを教えていた。

母親は同年12月1日、恩引き取った。

母親は同年12月1日、恩引き

取った。

今年1月の姉妹

孤立死を受け、札幌市が再発防止策

として進めている

知的障害者の見守

り活動で、対象と

した約50人の6割

が訪問を拒否して

いることが、9日

が訪問を優先

するセーフティ

ネット(安全網)

確立が進まぬ状況

で、7月中に同市

全域で実施する事

業はスタートから

課題を突きつけら

れた格好だ。

知的障害者見守り

背景に根強い行政不信

△解説△札幌市が進める知的障害者の見守り活動対象者の6割が拒否したのは、行政側の働きかけと当事者の意識に隔たりがあった

今年1月の姉妹孤立死を受け、札幌市が再発防止策として進めている知的障害者の見守り活動で、対象とした約50人の6割が訪問を拒否していることが、9日が訪問を優先するセーフティネット(安全網)確立が進まぬ状況で、7月中に同市全域で実施する事業はスタートから課題を突きつけられた格好だ。

拒否6割

札幌市の孤立死対策

「今困つてない」

ンマに陥っている。

札幌市は「今後も対

象者を拡大していく

い」として、当事者の

翻意を促す意向だが、

拒否の根底には「役所

は怖い、面倒、あれこ

れ言われる」など、行

政への不信感も大き

い。セーフティーネッ

トが必要な人たちの不

信を信頼に変える姿勢

が今「行政に求められ

ている。(藤本卓郎)

実施を前に同市は、公的な福祉サービスを受けていない知的障害者約1200人の希望を調査した。

「訪問希望」と回答した約120人のうち、外部との付き合いが薄いとみられる単身者と2人暮らしの約50人を見守りの対象者とした。

しかし、6月に再度、明を続け、見守り対象者が2人暮らしの約50人を見守りたいとの思いもある。同市保健福祉局は、「断る人が予想以上に多かったが、今後も説明を続け、見守り対象者が2人暮らしの約50人を見守りたい」と話している。

背景には、私生活をたぐないとの思いもある。同市保健福祉局は、「外周確認」の2バターンから選択。7月3日の同市北区を皮切りに見守りてくれるとい

うのを増やしたい」としている。見守り活動は、希望する知的障害者の自宅を月1、2回、民生委員が訪問し、安否を確認する。直接訪ねる「訪問・面談」と、郵便受けの状況などを外から見ることで認められる「訪問・面談」として、2月の調査で訪問を希望しなかつた50代の母親は、「息子の障害は軽度で1人で通勤もない。長年の不信を覆すには、なぜ拒否されたくない」と話している。

東京都で孤立死が発生、社会問題化している。いたま市で、3月には40代の姉が病死後、独りで残された知的障害のある妹も衰弱の末、凍死していた。姉妹は教授は「難しいお役所の言葉で市民は心を開かない。長年の不信を覆すには、なぜ拒否されたくない」と話している。

東京都で孤立死が発生、社会問題化している。いたま市で、3月には40代の姉が病死後、独りで残された知的障害のある妹も衰弱の末、凍死していた。姉妹は教授は「難しいお役所の言葉で市民は心を開かない。長年の不信を覆すには、なぜ拒否されたくない」と話している。

札幌市の孤立死は石区内で1月に発覚。40代の姉が病死後、独りで残された知的障害のある妹も衰弱の末、凍死していた。姉妹は教授は「難しいお役所の言葉で市民は心を開かない。長年の不信を覆すには、なぜ拒否されたくない」と話している。

札幌市は「今後も対象者を拡大していく」として、当事者の翻意を促す意向だが、拒否の根底には「役所は怖い、面倒、あれこれ言われる」など、行政への不信感も大きい。セーフティーネットが必要な人たちの不信を信頼に変える姿勢が今「行政に求められている。(藤本卓郎)

北海道

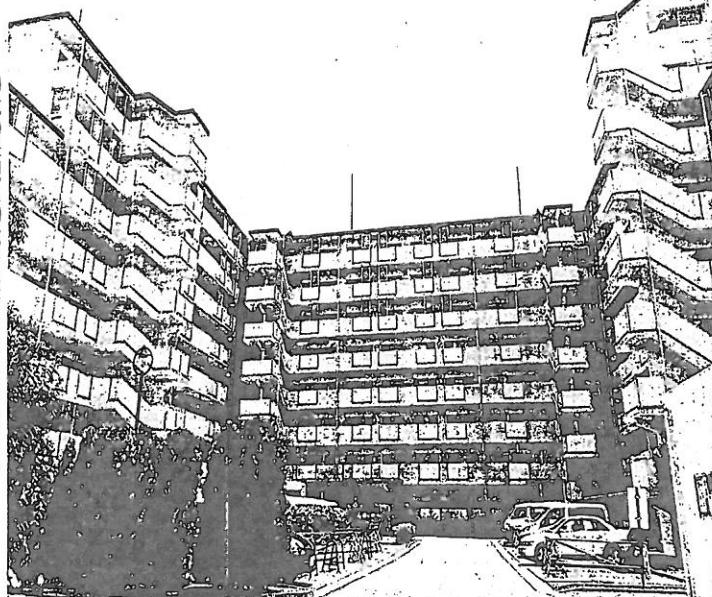
2012年(平成24年)7月10日

二人暮らしあだに

「母と一緒安心だと…」

東京都豊島区の都営団地で先月二十八日、発見された七十代の母親と四十年代の長女の孤立死は、一人暮らしより安心と思われがちな「一人暮らし」があだになつた状況が、関係者の話から分かつてきました。長女には精神障害があり、高齢の母親との暮らしはかえつて社会的な孤立を深めやすかつたのではといつ指摘もある。（柏崎智子）

豊島の孤立死



70代の母親と40代の長女が孤立死の状態で見つかった都営団地（東京都豊島区）

団地住民によると、親子は取り壊しが決まつた区内の別の都営団地から数年前に引っ越ししてきた女性は「前から近所付き合いのない家

区は、一人に生活保護の受給歴はなく「生活に困つていなかつた」とみる。区の高齢者対策として調査や見守り、配食のサービスがあるが、いずれも対象は単身か高齢者だけの世帯で、京子さんは当てはまらない。京子さんが障害者という情報は、区の高齢者福祉の担当には伝わって立をより深めたので

まだ。

団地住民によると、親子は取り壊しが決まつた区内の別の都営団地から数年前に引っ越ししてきた女性は「前から近所付き合いのない家

区は、一人に生活保護の受給歴はなく「生活に困つていなかつた」とみる。区の高齢者対策として調査や見守り、配食のサービスがあるが、いずれも対象は単身か高齢者だけの世帯で、京子さんは当てはまらない。京子さんが障害者という情報は、区の高齢者福祉の担当には伝わって立をより深めたので

まだ。

団地住民によると、親子は取り壊しが決まつた区内の別の都営団地から数年前に引っ越ししてきた女性は「前から近所付き合いのない家

区は、一人に生活保護の受給歴はなく「生活に困つていなかつた」とみる。区の高齢者対策として調査や見守り、配食のサービスがあるが、いずれも対象は単身か高齢者だけの世帯で、京子さんは当てはまらない。京子さんが障害者という情報は、区の高齢者福祉の担当には伝わって立をより深めたので

いなかつた。

京子さんは、パン作りをする区内の福祉作業所に月二～四回程度通つていた。最後に行つたのは六月二十九日。一ヶ月近く連絡無しで休んでおり、一人暮らしの利用者であれば作業所の職員が様子を見に行くケースだが、「お母さんと一緒になので大丈夫だと思つた」などと大丈夫だと思つた。まさか「一人で亡くなるとは…」と代表の男性は話す。

京子さんの通う病院から「受診六月十四日に一度だけ、区の地域包括支援センターの職員が二人を訪問した。京子さんと連絡があつたためかに会話できたものの、京子さんから「来てほしくない」と強く拒否され、それ以上の介入はしなかつたといふ。

「一人暮らしだからこそ、異常を見落とされたり、「社会的な孤立をより深めたので

いなかつた。

京子さんは、パン作りをする区内の福祉作業所に月二～四回程度通つていた。最後に行つたのは六月二十九日。一ヶ月近く連絡無しで休んでおり、一人暮らしの利用者であれば作業所の職員が様子を見に行くケースだが、「お母さんと一緒になので大丈夫だと思つた」などと大丈夫だと思つた。まさか「一人で亡くなるとは…」と代表の男性は話す。

京子さんの通う病院から「受診六月十四日に一度だけ、区の地域包括支援センターの職員が二人を訪問した。京子さんと連絡があつたためかに会話できたものの、京子さんから「来てほしくない」と強く拒否され、それ以上の介入はしなかつたといふ。

「一人暮らしだからこそ、異常を見落とされたり、「社会的な孤立をより深めたので

抱えた親は、世間に気兼ねして生活を隠そとし、交流しなくなりがちだ。野村会長は「ふだんから『子どもと一緒に死にたい』と考える人も少なくな

い」と話す。

「今回の

調査結果

では」と推察する。

京子さんは八年前か

ら数回、一人で区の相談窓口を訪れ、将来の不安を訴えていた。

野村会長は「母親か

ら独立して暮らしてい

れば、二人が一度に亡くなつて見つかるとい

う悲劇にはならなかつたかもしれない。障害者の自立を家庭だけではなく、地域で支援する体制が必要だ」と話している。

京子さんから「来てほしくない」と強く拒否され、それ以上の介入はしなかつたといふ。

「一人暮らしだからこそ、異常を見落とされたり、「社会的な孤立をより深めたので

迅速な孤立死対策訴え

障害者の権利や
自立考える大会

520人 理解深める

札幌

早く動いていれば男の子は助かったかもしない」と、迅速な対応の重要性を訴えた。



障害者の権利や自立について考える「ピープルファースト大会 in 北海道」（実行委主催）が1、2の両日、かでる2・7（札幌市中央区北2西7）で行われた。国内各地から障害者と支援者約520人が参加、障害者を取り巻く法制度や社会状況について理解を深めた。

（市村信子）

「ピープルファースト」は「障害者である前の人間である」という理念の下、道内約50人、全国で約400人の会員が活動している。

大会の道内開催は2度目で、1月に白石区で知的障害のある女性とその姉が孤立死した。障害者の孤立死などをテーマに報告や提言が行われた大会

事件、10月に施行される障害者虐待防止法などをテーマに、会員や行政関係者が報告した。

孤

立死に関しては、札幌市の保健福祉担当者が見守り強化などの対策を説明。ピープルファースト東京の佐々木信行事務局長も2月に東京・立川市で発見された知的障害のある男児と、その母の孤立死を報告し、「行政が

16版 第4社会 32

市の福祉行政改善を

障害者支援団体 人権救済申し立て

札幌市白石区で1月、40代の姉と知的障害のある妹が孤立死し

ているのが見つかった問題で、札幌市の障害者支援団体「ピープル

ファースト北海道」は27日、市の生活保護や福祉行政に関する調査の実施や改善勧告などを求め、札幌弁護士会に人権救済の申し立てを行った。

申し立てで同団体は、生活保護の申請を

札幌・姉妹孤立死「対応不適切」

相談した姉に対し、市の担当者は適切に対応しなかつたとしている。

申し立て後の記者会

見で、自らも知的障害がある原田千代子さん（52）は札幌市東区は「助けてほしい人をなぜ助けられなかつたのか。支援者がいれば、役所が分かりやすく話してあげていれば、2人は保護を受けられ、死ぬこともなかつたと思う」と話した。



記者会見する「ピープルファースト北海道」の会員ら=札幌市中央区

北海

幌札

生活保護者孤独死43人

4~6月 市「異変察知は困難」

札幌市内で誰にも知られず自宅で亡くなった一人暮らしの生活保護受給者が、今年4月から6月の3カ月で43人いたことが27日、同市のまとめで分かった。

生活保護の支給をため年間の孤独死者数は正確には分からぬ健福祉局は「今回の調査から、少なくとも年間100人以上は孤独死した人のうち、親族などからの速やかな通報で手続きした人を除いたケースを初めてまとめた。遺体発見までの時間や性別、年齢層の分析はしていない。

同市によると、43人のうち37人は家賃滞納などで自宅に様子を見に行つた大家や管理会社が遺体を発見。残り6人は、近隣住民から「最近見かけない」などの連絡を受けたケーブルカードが住宅に立入りつて発見した。過去のデータがない

急増する高齢単身世帯

行政関与に限界

札幌市の生活保護受

知れず「くなっている

札幌市のケースワーカーは、男性が利用し

ていた配食業者から5

月下旬に「弁当にほと

んど手をつけていない

場合、「どうして勝手

日がある」との連絡を

受け、男性宅への訪問

を始めたが応答はなか

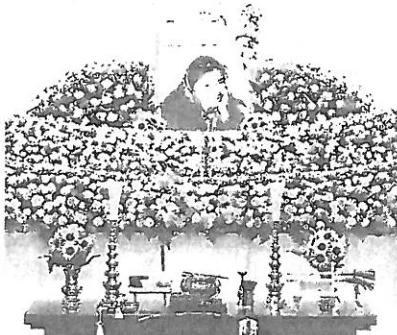
った。

男性は健康状態も良

死していると考えられる」と推測。「生活保護受給者で行政の関与はあるのだが、一人暮らしのため、異変に即座に気づくのは難しい」としている。

「ケースワーカーの対応に誤りがあったとの認識はない」とする。同市によると、部屋に立ち入るのはまずケースワーカーの判断による。白石区のケースワーカー(28)は6月下旬、担当する50代男性宅を訪問した際、ドアが施錠されていないのを不審に思い、ドアを開けた。玄関から声を掛けても、ベッドの上に動かない受給者を発見。119番通報し、受給者の命を救った。

同市幹部は「行政だけで孤独死を減らすことは難しい」とし、「町内会の活性化など、日々の地域のつながりを強化することが重要」と市民の協力を呼びかけている。



シリアル北部で取材中に銃撃され死亡した本美香さんの墓地と遺影=27日午後

好で、それまでの自宅訪問でも不在がちだつたため、ケースワーカーはそれ以上の対応を見送った。3度目の訪問で道警とともに立ち入ったが手遅れだつた。同市保健福祉局は「ケースワーカーの対応に誤りがあったとの認識はない」とする。同市によると、部屋に立ち入るのはまずケースワーカーの判断による。白石区のケースワーカー(28)は6月下旬、担当する50代男性宅を訪問した際、ドアが施錠されていないのを不審に思い、ドアを開けた。玄関から声を掛けても、ベッドの上に動かない受給者を発見。119番通報し、受給者の命を救った。

山本さん通夜

斎場の口、ラクヤコ、撮影した

札幌市によると、今年7月時点の生活保護世帯約5万のうち、単身世帯は7割強の約3万6千で前年同月比約2300世帯増えた。増加傾向はここ数年変わっていない。

受給世帯を含む全世帯でみても、単身世帯は増加の一途。2010年の国勢調査では、全世帯の4割近くの34万8千。人口の伸びが止まりつつある中、00年比で約8万9千世帯増えた。65歳以上の高齢単身世帯は約8万2千で、10年前の8割増となつておらず、受給世帯以外の孤独死も増えているとみられる。

シリアル北部アレッボン本美香さん(45)の通夜が27日、実家のある山梨県都留市の斎場でしめやかに営まれた。親族や友人ら800人が訪れ、突然の死を悼んだ。

スト佐藤赤やピンクの花々に、山本美香さん(45)の通夜が27日、実家のある山梨県都留市の斎場でしめやかに営まれた。親族や友人ら800人が訪れ、突然の死を悼んだ。

シリアル北部アレッボン本美香さん(45)の通夜が27日、実家のある山梨県都留市の斎場でしめやかに営まれた。親族や友人ら800人が訪れ、突然の死を悼んだ。

ご近所に見守りが必要な人はいませんか?

地域から孤立して心配な人がいたら、
ご相談ください。

いのちをつなぐネットワーク担当係長が地域に出向き(出前主義)、サービスへのつなぎや地域での見守り活動を支援します

□いのちをつなぐネットワークに関する連絡先

門司区役所・生活支援課	TEL093-331-1881(代)(内線:433)
小倉北区役所・生活支援課	TEL093-582-3430(直通)
小倉南区役所・生活支援課	TEL093-951-4111(代)(内線:491-492)
若松区役所・生活支援課	TEL093-761-5321(代)(内線:436)
八幡東区役所・生活支援課	TEL093-671-0801(代)(内線:480)
八幡西区役所・生活支援課	TEL093-642-1441(代)(内線:461-462)
戸畠区役所・生活支援課	TEL093-871-1501(代)(内線:627)
保健福祉局いのちをつなぐネットワーク推進課	TEL093-582-2060(直通)



いのちをつなぐネットワーク



いのちをつなぐネットワークとは?

いのちをつなぐネットワークは、市民が地域から孤立し、必要な制度やサービスが受けられないまま死に至ることがないよう、みんなで「見つける」「つなげる」「見守る」ためのネットワーク(取り組み)です。

これは、新たなネットワークをつくるのではなく、「いのちをつなぐ」をキーワードに、既存の地域におけるネットワークや見守りの仕組みを結びつけ、網の目を細かくしていくことで、地域福祉のネットワークを充実・強化していくものです。

□その他の区役所内相談窓口の連絡先

子どもや家庭・教育に関すること	子ども・家庭相談コーナー
介護保険に関すること	保健福祉課介護保険係
高齢者・障害者福祉に関すること	生活支援課保健福祉相談係
(高齢者の保健・医療・福祉の総合相談窓口)	(生活支援課地域包括支援センター)
各種健診など健康に関すること	生活支援課地域保健係
生活保護に関すること	保護課

【各区役所代表電話番号】

門司区役所	TEL093-331-1881	八幡東区役所	TEL093-671-0801
小倉北区役所	TEL093-582-3311	八幡西区役所	TEL093-642-1441
小倉南区役所	TEL093-951-4111	戸畠区役所	TEL093-871-1501
若松区役所	TEL093-761-5321		

いのちをつなぐネットワーク

3つのキーワード
見つける
つなげる

福祉サービスを
受けている人

家族や地域から孤立し、
支援や見守りが必要な人

地域
担当係長

ご近所に支援や見守りが必要と思われる人がいないか、気を配り見つけます

協力

地域に出向いて、支援や見守りが必要と思われる人の情報を集めます

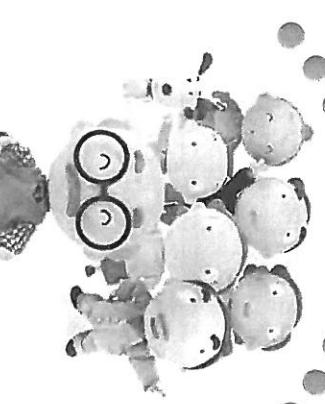
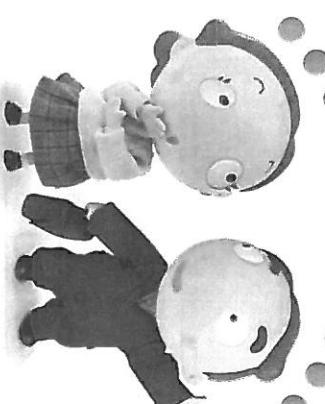
ご近所に支援や見守りが必要と思われる人がいた場合、民生委員等に相談したり、担当係長に連絡します

協力

地域からの情報を受け、支援できる
制度やサービスはないか、区役所全
体で検討し、支援方法を決定します

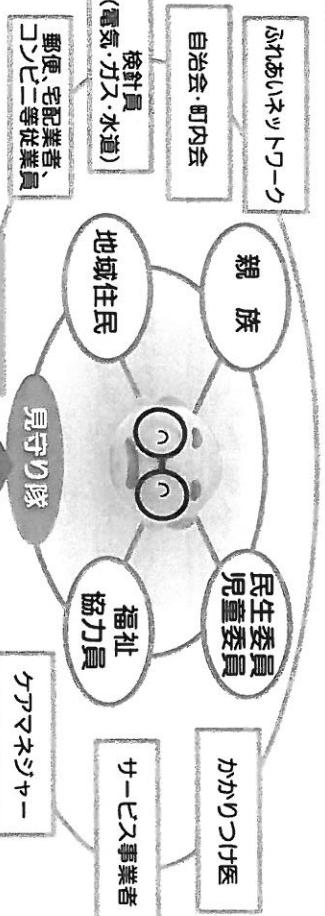
協力

見守りが必要な人には、ご本人を中心とした「見守り隊」を立ち上げます



見守る

いのちをつなぐネットワークのイメージ



■孤立死(孤独死)とは? 「孤立死(孤独死)」と「独居死」の違い

《孤立死(孤独死)》
周囲との交流がなく、地域や社会から孤立して必要な
支援を受けられない状況の中、誰にも看取られず
一人で亡くなった場合

《独居死》
一人暮らしの人で、親族や近隣住民、見守り関係者等と
の交流がある中で、突然の事故・病気などにより一人で
亡くなった場合

■見守り隊とは…

ご本人(当事者)と少しでも交流のある人(ご近所の人や友人、馴染みの店等)を中心に、民生委員や福祉協力員など、
当事者を無理のない範囲で支えていただける地域の皆様です

■気付き隊とは…

地域の方々のネットワークはじめ、電気・ガス・水道、郵便・宅配業者、コンビニ等、その方が利用している様々
な業者などで、支援や見守りが必要な人の情報を見守り隊や担当係長に伝えていただける皆様です。

「孤立・孤独死」を防ぐために私たちができること

孤立や孤独死を防ぐためには、自分自身の日頃からの備えとともに、地域全体で支え合う取り組みが不可欠です。下記のチェックリストを参考に取り組みのヒントにしてください。

◆ 自分でできることチェックリスト

- ご近所に相談し合ったり、定期的に見守り合う人をみつけている
- 自分の緊急連絡先、病気、かかりつけ医などの情報を地域の人(組織)に知らせている
- 役員や民生委員、福祉関係施設等の連絡先を把握している
- ご近所内の支え合いをすすめるために、表札を掲げている
- 様々な活動に参加し、お休みした際、安否確認してもらえるようにしている
- 行政の福祉サービスや民間の見守りサービスを確認し、必要があれば申し込んでいる
- もしもの時を考え、身の周りや住宅等の管理などをお願ひできる人を確保している

◆ 地域でできることチェックリスト

●情報の共有化

- 支え合いに必要な最低限の情報をご近所同士で共有できるような取り組みをしている
- 役員等は、住人の緊急連絡先や身体状況等を記載した登録カードを備えている
- 個人情報の取扱いや安否確認体制、異常事態発生後の対応等、組織の規約に定めている

●見守りの体制づくり

- 安否を確認する体制を構築している
- 発見に役立つサインの一覧を作成し、全戸に周知している
- 異変があった時、即座に伝わる連絡網を作成している
- 見守り等で発見した住人の福祉ニーズを解決したり、関係機関につなぐルートを整備している

●孤立を防ぐ取り組み

- 閉じこもりがちな住人の状況を把握し、定期的に声かけをしている
- 地域内にふれあえる場所を設けている

●支え合うためのコミュニティづくり

- あいさつ、声かけ、表札の掲出等を促す取り組みをしている
- 交流行事を実施している
- さまざまな自主グループの活動を支援している
- 災害対策など、他の助け合い活動や組織と連携している

孤立死防止は三段構えで

[支え合いマップの効用]

- ①気になる人が残らず見つかる。人材も同時に発見（地図の名前をみると思い出す）
- ②ご近所のことに関心が向く。「この人を何とかしななくちゃ」と思うようになる

1.短期戦

- ①気がかりな人を一人残らず支え合いマップで探し出す
- ②その人に誰と誰が見守っているかを特定する
- ③本人と接点になっている人・店等も発掘
- ④本人はこの中のだれを見込んでいるのか？
- ⑤見込まれた人を軸に一日も空白を作らない体制作り
- ⑥異変があった時、関係機関に伝達するルートも

2.中期戦

- (1)ふれあいのあるご近所作り
 - ①サロン・交流行事の開催
 - ②班の仲間で日常的交流
 - ③そこに気になる人も誘う
- (2)助け合いのあるご近所作り
 - ①「困った時お願ひね」と言える
 - ②人に迷惑かけてもいいのだと
- (3)お節介が許されるまちに
 - ①「でしゃばり」と責めない
 - ②必要なら「こじあけ」も

3.長期戦

- (1)障害・病気を隠さない住民に
 - ①「あの人は認知症」と言い合える
 - ②「息子が精神障害」と言える
- (2)「助けて！」と言える住民に
 - ①「困った時お願ひね」と言える
 - ②人に迷惑かけてもいいのだと
- (3)お節介が許されるまちに
 - ①「でしゃばり」と責めない
 - ②必要なら「こじあけ」も

[大事なポイント]

- ①高齢者夫婦、息子と要介護の母等、対象をもつと広げる
- ②既に見守っている人が複数いる。身内も必ずいる。
- ③コンビニ、宅配業者、診療所など本人との接点のある人
- ④引きこもりの人も2、3人は誰かを見込んでいる。
- ⑤上記の人材で「一日も空白を作らない」見守り体制を
- ⑥気づいた異変が素早く関係機関に伝わるルートづくり

[大事なポイント]

- (1)相性の合う人を通してふれあいに加わる
- (2)助けてくれる相手には心をひらく

[大事なポイント]

- (1)「自分のことは知られたくない」を克服
- 「プライバシー」に縛られない
- (2)助け手は自分で確保できる当事者に
「人に迷惑かけるな」という教えを放棄
- (3)世話焼きさんを潰さない
- 引きこもりの家もこじあけてしまう人

身近な地域で こんなことがあったメモ

地域で生活する中で、障がいということでいろいろな生きづらさや困ったこと、トラブルなどがあると思います。孤立といった問題だけでなく、皆さんが身近にあった出来事や人から来したことなど、どんな些細なことでもかまいませんので、記入願います。みんなで身近な問題を見つけていきましょう。